

みその都市デザイン方針（素案）概要版

背景・目的

- 約320ha土地区画整理事業「みそのウイングシティ」
- 「スポーツ、健康、環境・エネルギー」をテーマとしたまちづくり
- 都市再生機構施行地区の都市基盤整備完了
- 東京オリンピック開催

地権者・住民や民間事業者、大学等の専門機関、行政機関など、美園地区に係る様々なまちづくり関係者の協働・連携により個性と魅力ある都市を実現するため、これまでのまちづくりコンセプトを継承しながら、**美園地区が目指すべき都市デザインの将来目標や実践方針・戦略**を策定

▶“地域の特徴を活かした質の高い空間を形成し、人の様々な活動やコミュニケーションを生み出す”

検討範囲



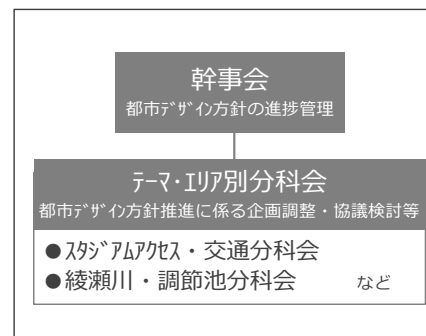
目標年次

東京オリンピック開催の2020年度を目標として短期的な取組みを推進し、約15年後の2030年度を中長期的な取組みの目標年次とする。

位置づけ・推進体制

本方針は、住民・地権者や民間事業者、大学等の専門機関、行政機関などが参加する「**みその都市デザイン協議会**」によって**策定**されており、**公民学の連携・協働により実現を図る計画**である。内容には現行の諸計画※1を上回るものや法令等の緩和を必要とするものも含まれており、これらの実現に向けては、各構成組織内部での検討や関係機関との調整を進めながら政策・事業へと結びつけるとともに、協議会内に設置する個別テーマを対象とした分科会において関係者間の連携・協働を図っていく。さらには協議会内の幹事会において本方針の進捗管理を実施し、まちづくりのステージに応じた戦略の見直しを行う。

※1 さいたま市総合振興計画等



基本理念（美園スタジアムタウン憲章）

美園スタジアムタウン = 街全体がスタジアムのような品格と活力にあふれ、一人ひとりがまちづくりのプレイヤーであり、サポーターとなるまち

さいたま市の副都心の一つである美園地区として、本地区の象徴たる埼玉スタジアム2002公園をはじめとする地域資源を生かしながら、“美園”に暮らす人・働く人・学ぶ人・訪れる人が、安心して快適かつ健康的なライフスタイルを実現しつつ、コミュニティの中で楽しく、豊かな時間を享受できる**“スタジアムタウン”** となることを目指す。

<まちづくりの基本理念>

新価値創造都市・美園

創造的な交流を通じて、新しい価値を生みながら成熟していくスタジアムタウン

多世代健幸都市・美園

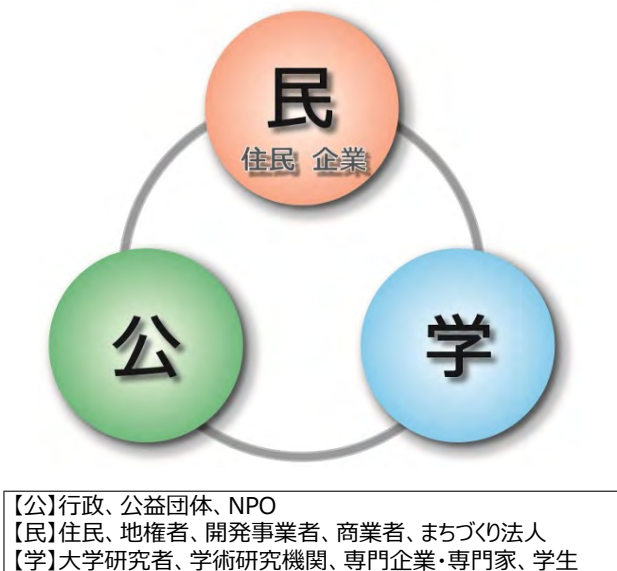
子どもから高齢者まで、地域の中で支え合い、健やかに過ごせるスタジアムタウン

次世代環境都市・美園

豊かな自然に親しみ、人と環境にやさしい暮らしを未来に伝えるスタジアムタウン

<まちづくり活動の指針>

“美園”に係る様々なステークホルダーが、オープンかつフラットに連携・協働する



都市デザインの方針

方針1

サッカー観戦者などの来街者をもてなすホスピタリティある環境と、日常的な賑わい・交流を創出する都市機能や活動を誘導しながら、市の副都心に相応しい都市環境を形成する。

方針2

安心・安全で心地よい居住空間と、歩行者と自転車にやさしい交通環境を整えながら、健康を育み、スポーツ・レクリエーションに親しみやすい都市環境を形成する。

方針3

見沼田圃や綾瀬川水系につながるみどりの回廊を形成しながら、安全・快適で落ち着いた雰囲気美しい街並みを誘導し、低炭素・循環型の持続可能な都市環境を形成する。

戦略1. 緑豊かな副都心の顔と骨格をつくる

街の顔となる浦和美園駅周辺の都市核エリアと都市骨格軸（浦和岩槻線・浦和東京線、国道463号バイパス）を中心に景観誘導や都市機能誘導を進めるとともに交通環境の充実を図り、副都心に相応しい空間を形成する。

戦略1-1 緑豊かで活力ある都市核エリアを形成する

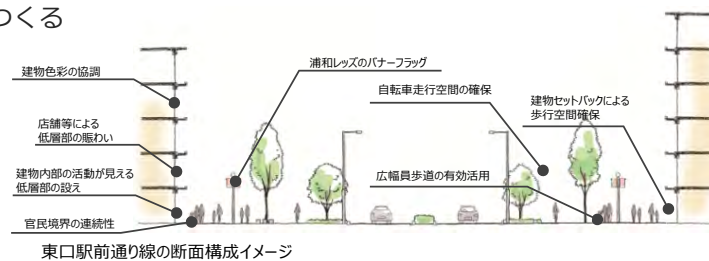
- （1）“美しい園”を象徴する緑と品格のある駅前空間をつくる
- （2）副都心としての活力ある都市環境を形成する
- （3）都市核エリアから周辺部へ歩行環境を連続させる

戦略1-2 街の骨格軸を形成する

- （1）都市骨格軸を形成する
- （2）緑豊かで安全な街路ネットワークをつくる
- （3）広域的な交通環境を整える

戦略1-3 街の入口を演出する

- （1）街の入口を演出する
- （2）都市核エリアの入口を演出する



都市骨格軸（浦和岩槻線）

自転車走行空間

街の入口演出イメージ

戦略2. サッカー文化の薫る街のシンボル空間をつくる

景観的・文化的なシンボルである埼玉スタジアムと浦和美園駅を結ぶコミュニティ道路（通称：スタジアム参道）を軸に重点的な景観誘導や交流と賑わいを生み出す空間づくりを進め、世界に誇れるサッカーの街・スタジアムの街をつくる。

戦略2-1 埼玉スタジアムを中心とした賑わい・交流拠点をつくる

- （1）快適なスタジアム環境を形成する
- （2）大門上池を活用した賑わい・交流の場を形成する
- （3）埼玉スタジアムから周辺部へ歩行環境を連続させる

戦略2-2 “参道”を軸に表情豊かな都市環境を形成する

- （1）美園のシンボルとなる“参道”をつくる
- （2）多様な都市活動を展開する
- （3）医療・福祉・文教拠点へ歩行環境を連続させる

戦略2-3 スタジアムアクセス空間を充実させる

- （1）既存のオープンスペースを活用する
- （2）街の回遊性を強化する



埼玉スタジアムの賑わい



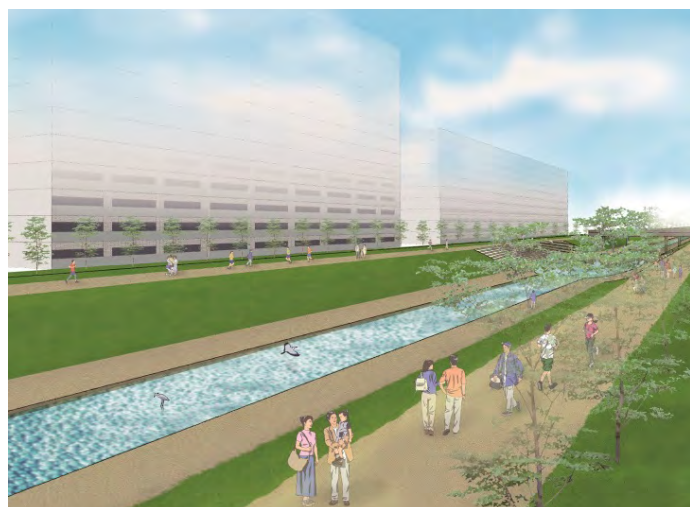
サッカーの街の演出（スタジアム参道）



オープンスペースを活用した賑わい



スタジアム参道の将来イメージパース（歩行者優先化交通規制による賑わい創出イメージ）



綾瀬川の将来イメージパース

戦略3. 健康を育む緑と水の拠点を連続させる

美園地区固有の自然環境である綾瀬川の水辺環境を軸として、街づくりによって生み出した公園・調節池に緑と水の拠点づくりを進め、健康を育みスポーツ・レクリエーションに親しみやすい都市環境をつくる。

戦略3-1 綾瀬川に緑と水の軸を形成する

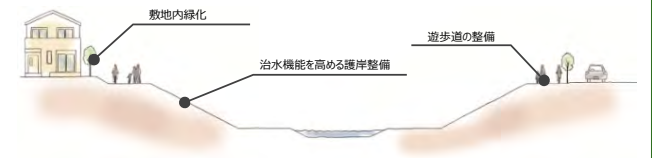
- （1）綾瀬川に歩行環境を整備する
- （2）周辺部へ歩行環境を連続させる

戦略3-2 健康、環境・エネルギーの拠点を つくる

- （1）広大な調節池を活用する
- （2）調節池を介して街の拠点を連続させる
- （3）身近な健康拠点を形成する

戦略3-3 近隣公園を核に緑をひろげる

- （1）緑の核として近隣公園を整備する
- （2）近隣公園から東西へ緑をひろげる



綾瀬川の断面構成イメージ図



調節池（大門下池）



身近な健康拠点イメージ

戦略4. 安心安全・快適な居住環境をネットワークする

地区内の公園・学校を中心に安心安全な歩行環境ネットワークをつくり、美園らしさを活かした快適な居住環境を展開する。

戦略4-1 歩行者中心の居住環境ネットワークをつくる

- （1）安心安全な歩行環境ネットワークをつくる
- （2）歩行者環境を補完する地区内交通環境を整える
- （3）住宅地の安らぎと美しさを保つ

戦略4-2 美園らしさを生かした居住環境をつくる

- （1）モデルとなる住宅街区を形成する
- （2）農とふれあえる居住エリアをつくる
- （3）斜面林を保全する
- （4）見沼の緑と風を美園に迎え入れる



住宅敷地内緑化



斜面林（下野田緑地）



歩行拠点イメージ

戦略5. 都市デザインをマネジメントする

公・民+学による連携・協働の場を維持・強化しながら、公有地・民有地において地域の特色やまちづくりのステージに応じた都市空間のデザインマネジメントを推し進めていく。

戦略5-1 地域が連携・協働するプラットフォームを築く

- （1）継続的な連携・協働の場をつくる
- （2）地域を巻き込んだオープンな議論を展開する

戦略5-2 都市空間のデザインマネジメント体制を構築する

- （1）オープンスペースの利活用・維持管理体制を構築する
- （2）主要地区において景観協議の仕組みを構築する
- （3）生活エリアの景観・美観づくりを進める

戦略5-3 都市のコミュニケーション力を高める

- （1）地域への情報発信を推進する
- （2）街への関心を高めるプログラムを展開する
- （3）街に対する愛着・誇りを醸成する



まちづくりワークショップ



市民参加プログラム



清掃活動